

# 深浦町における歴史文化資源調査と その活用による津軽青森地域振興事業

原 克 昭<sup>1</sup>

## はじめに

深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトは、2017年の調査開始から数えて5年目を迎えた。ひきつづき、2021年度も公益財団法人青森学術文化振興財団より地域の振興に係る研究事業（チャレンジ枠）の助成を受けて実施した。以下、本事業の活動を報告する。

## 1. 背景と目的

本プロジェクトは、深浦町の古刹・春光山円覚寺に所蔵される古典籍資料の調査研究活動を基調として、新たな津軽青森地域の歴史文化資源ひいては青森県を代表する文化観光資源へと展開させることを目的とする。青森県内に現存する文化財としての文献資料群の付加価値化、および全国規模からみた体系的な宗教史資料の再定位をはかるべく、地域寺院資料の調査研究の意義と可能性を提起することをめざしているものである。

本年度も旧態依然として全国規模に及ぶコロナ禍に見舞われたが、その中であって深浦円覚寺所蔵の聖教類全2,135点が「円覚寺真言・修験聖教類及び文書」として、青森県の県重宝指定を受けるはこびとなった（2021年4月9日付県報掲載）。県重宝指定にむけた悉皆調査と目録整理を推進させ、申請目録作成のお手伝いを継続してきた本プロジェクトにとっても地域貢献活動の冥利に尽きるばかりである。

そこで、本年度は県重宝指定を記念した特別講演フォーラムを実施し、報告書は《県重宝指定記念号》として刊行することとした。

## 2. 実施内容

### （1）2021年度深浦古典籍保存調査プロジェクト成果報告会（フォーラム）のオンライン開催（2021年9月26日）

- ・深浦円覚寺聖教の県重宝指定という高付加価値の実現化を記念するとともに、寺院資料調査の課題と展望を見据えるべく、第4回目となるフォーラム「寺院資料調査から地域文化振興を考える——深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて——」をオンライン開催した。
- ・特別講師として、阿部泰郎先生（名古屋大学名誉教授・龍谷大学文学部教授）・三村三千代先生（八戸学院大学短期大学部客員教授）・渡辺麻里子先生（大正大学文学部教授・前 弘前大学人文社会科学部教授）に登壇を依頼し、それぞれの立場から講演いただいた上で、さらに相互に意見交換をする場を設定した。

<sup>1</sup> 弘前大学人文社会科学部

- ・リアルタイムで相互配信することにより、深浦町・弘前大学・東京（大正大学）をオンラインでつなぐ『もうひとつの地域連携発信型』の新たな可能性を提起する機会となった。
- ・一般の方々をはじめ学内外の関係者および国内各所さらには海外の研究者など100名に近い視聴参加を得た。また、意見交換の場では、視聴参加者からもチャット機能を用いた興味深い質問をいくつか寄せていただくことができた。
- ・フォーラム開催後には、視聴参加者にFormsを活用したWEBアンケートを実施した。3名の特別講師の先生方による講演および意見交換に対するコメントに加えて、オンライン開催に関する反響もいただいた。



## （2）報告書の刊行（2022年2月発行）

- ・本事業にかかる調査研究の成果や協働調査の現況、フォーラム開催内容を取りまとめた報告書は、これまで第1～3集の各集約400部程度を発行・頒布し、バックナンバーの所望など様々な形で各所より好評をいただいている。
- ・本年度は、『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第四集《県重宝指定記念号》として、フォーラムにおける特別講演・意見交換および県重宝指定書目録を収録した形で刊行し、地域に密着した調査活動の持続と全国規模での学術的発展という双方向的な展開を切り拓くべく情報提供に資する予定である。

## 3. おわりに

2018年度より延べ4年間にわたる公益財団法人青森学術文化振興財団にかかる研究事業助成は、本年度を以て最終年度となる。しかしながら、このたびの県重宝指定を一つの契機として、今後も持続可能な地域貢献活動の一環として、ひきつづき調査活動を継続してゆく。これまで御参加くださった関係各位に改めて深謝申し上げるとともに、改めて大学教員・学生と地域住民・高校生が一堂に会して協働調査が再始動できることを期してむすびとする。

### 〈参考文献〉

『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第四集《県重宝指定記念号》、2022年2月、弘前大学人文社会科学部深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト（1-236頁）。



# ZOOMによるWeb開催

2021年

(事前予約制)

# 9月26日日

## 13:00~16:00

本プロジェクトによる深浦円覚寺の古典籍保存調査が連携協力する活動成果の一環として、本年4月に「円覚寺真言・修験聖教類及び文書」が青森県重宝指定を受けるにいたりしました。そこで、第4回目となる本フォーラムでは、特別講師3名による講演ならびに意見交換をオンライン方式により開催し、その文化資源としての価値と寺院資料調査の意義について、青森県民のみならず、ひいては全国の方々に向けて発信し情報共有する場をつくりました。Web開催により弘前大学・深浦町・東京をオンラインでつなぐ、「もうひとつの地域連携発信型」の新たな試みに、みなさんも参加してみませんか。

### 特別講師3名による講演



「東北は、宗教文化遺産の宝の山である。  
—奥会津からの真言寺院聖教との比較—」

名古屋大学 名誉教授・龍谷大学文学部 教授

あべ やすろう  
**阿部 泰郎** 先生



「たからものは皆で守る  
—女人も素人も力を合わせて—」

八戸学院大学短期大学部 客員教授

みむら みちよ  
**三村 三千代** 先生



「昔の人がのこしてくれた文字と紙  
—深浦円覚寺の古典籍調査と青森の未来—」

大正大学文学部 教授  
前 弘前大学人文社会科学部 教授

わたなべ まりこ  
**渡辺 麻里子** 先生

主催 深浦町・弘前大学・深浦町教育委員会  
弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

後援 弘前市・東奥日報社・陸奥新報社

公益財団法人青森学術文化振興財団の助成を受けています

問い合わせ 右記のQRコードからも申し込みいただけます。

弘前大学人文社会科学部 准教授 原克昭

harak@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学人文・地域研究総務G 葛西

jm3192@hirosaki-u.ac.jp

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 電話 0172-39-3192



# 寺院資料調査から 地域文化振興を考える

— 深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて —

2021年度 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会  
弘前大学深浦エコサテライトキャンパス 令和3年度特別公開講座

Ⅲ-1

深浦町における歴史文化資源調査と  
その活用による津軽青森地域振興事業



## プログラム

- 13:00 開会の辞 深浦町長 吉田 満
- 13:05 ご挨拶 円覚寺副住職 海浦 誠観
- 13:10～13:30 趣旨説明 弘前大学人文社会科学部 准教授 原 克昭
- 13:30～14:00 講演1 「昔の人がのこしてくれた文字と紙  
—深浦円覚寺の古典籍調査と青森の未来—」  
大正大学文学部 教授・前 弘前大学人文社会科学部 教授 渡辺 麻里子 先生
- 14:00～14:30 講演2 「たからものは皆で守る —<sup>くろく</sup>玄人も<sup>しろく</sup>素人も力を合わせて—」  
八戸学院大学短期大学部 客員教授 三村 三千代 先生  
(休憩10分)
- 14:40～15:20 講演3 「東北は、宗教文化遺産の宝の山である。  
—奥会津からの真言寺院聖教との比較—」  
名古屋大学 名誉教授・龍谷大学文学部 教授 阿部 泰郎 先生
- 15:20～15:50 意見交換
- 15:50 閉会の辞  
弘前大学 理事(社会連携担当)・弘前大学 深浦エコサテライトキャンパス所長 石川 隆洋
- 16:00 閉会

## 講師紹介

名古屋大学 名誉教授  
龍谷大学文学部 教授

### 阿部 泰郎 先生

専門は、日本中世文学を中心に、説話文学・仏教文学・芸能史・宗教テキスト学。主な著書に、「中世日本の宗教テキスト体系」(名古屋大学出版会、2013年)、「中世日本の世界像」(同、2018年)、「中世日本の王権神話」(同、2020年)など。本プロジェクト第2回フォーラム特別講師。

八戸学院大学短期大学部 客員教授

### 三村 三千代 先生

東京大学文学部卒業、同大学院修士課程修了。上北郡おいらせ町在住。八戸学院大学短期大学部にて客員教授を勤めるかわら、各地で古典文学の講師を務める。著書に、「ミムラン先生のチャレンジ百人一首」(東奥日報社、2018年)がある。

大正大学文学部 教授  
前 弘前大学人文社会科学部 教授

### 渡辺 麻里子 先生

早稲田大学大学院博士課程修了。博士(文学)。専門は、日本中世文学(仏教・説話)、文献資料学。主な業績に、「中世文学研究における寺院資料調査の可能性」(『中世文学』56、2011年)、「天台仏教と古典文学」(『天台学深尋』法蔵館、2014年)など。弘前大学在職中に本プロジェクトを発起。

## 参加申し込み方法(事前予約制) 参加をご希望の方は、QRコードもしくはEメールよりお申し込みください。

### ■ZoomアプリによるWeb視聴参加 [申込期限:9月25日(土)まで]

QRコードもしくはEメールよりお申し込みください。  
お申し込みいただいたEメールアドレスに、Zoom視聴用URLをお知らせいたします。各自Zoomアプリ(無料)をダウンロードしてください。  
参加者のみなさまはカメラオフでお好きな時間に参加可能です。  
なお、開催数日前になってもお知らせメールが届かない場合はご連絡ください。



### ■問い合わせ

弘前大学人文社会科学部 准教授 原克昭  
harak@hirosaki-u.ac.jp  
弘前大学人文・地域研究科総務G 葛西  
jm3192@hirosaki-u.ac.jp  
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
電話 0172-39-3192